

富山県立高岡高等学校

令和5年度 必履修科目シラバス

		ページ
国語	現代の国語	2
	言語文化	3
地理歴史	地理総合	4
	歴史総合	5
公民	公共	6
数学	数学Ⅰ	7
理科	化学基礎	8・9
	地学基礎	10
	物理基礎	11
	生物基礎	12
保健体育	体育	13～15
	保健	16・17
芸術	音楽Ⅰ	18
	美術Ⅰ	19
	書道Ⅰ	20
外国語	英語コミュニケーションⅠ	21
家庭	家庭基礎	22・23
情報	情報Ⅰ	24
理数	理数探究	25
(専門科目)	理数数学Ⅰ	26
	理数地学	27
	理数数学Ⅱ	28・29
	理数物理	30・31
	理数化学	32～35
	理数生物	36～38
英語	総合英語Ⅰ	39
(専門科目)	ディベート・ディスカッションⅠ	40

教科	科目	学科・学年	単位数
国語	現代の国語	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書		使用教材	
『現代の国語』（数研出版）		『ちくま評論文の読み方』（筑摩書房）	
科目の概要 と目標	国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成		
	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、伝え合う力を高める。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して思いや考えを深めながら、積極的に他者や社会に関わる態度を養う。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		ペーパーテスト	
思考・判断・表現		ペーパーテスト、パフォーマンステスト、レポート・ワークシート	
主体的に学習に取り組む態度		ペーパーテスト、振り返りシート	
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
伝え合う内容を検討する【話・聞】 「感情暴走社会の由来」山極寿一		目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。	
考えを明確にし構成を工夫する【話・聞】 「絵を前に思いをめぐらす」榎木野衣		自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。	
表現を工夫する【話・聞】 「ポストプライバシー」阪本俊生		話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する。	
聞き取った内容を評価・整理する【話・聞】 「命は誰のものなのか」柳澤桂子		論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。	
話し合いの仕方を工夫する【話・聞】 「無痛化する社会のゆくえ」森岡正博		論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する。	
題材を決め情報を吟味する【書】 「動的平衡の回復」福岡伸一		目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。	
文章の構成や展開を工夫する【書】 「水の東西」山崎正和 「デジタルメディア時代の複製」武村政春		読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。	
説明や表現の仕方を工夫する【書】 「動物園というメディア」山本茂行		自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。	
自分の文章を捉え直す【書】 「事実なのか考えなのか」野矢茂樹		目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。	
叙述を捉え要旨を把握する【読】 「コミュニケーション能力とは何か」内田樹 「時間と自由の関係について」内山節 「他者を理解するということ」鷲田清一		文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	
情報に関連付けて読み深める【読】 「ものとはことば」鈴木孝夫		目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。	

教科	科目	学科・学年	単位数
国語	言語文化	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	3
教科書		使用教材	
『言語文化』（数研出版）		『完全マスター古典文法』（第一学習社）『漢文必携』（桐原書店）	
科目の概要 と目標	国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、伝え合う力を高める。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を効果的に使おうとする態度を養う。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		ペーパーテスト	
思考・判断・表現		ペーパーテスト、レポート・ワークシート	
主体的に学習に取り組む態度		ペーパーテスト、振り返りシート	
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
題材や味わいを吟味して表現する 『伊勢物語』『芥川』		古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古語特有の表現などについて理解する。 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。	
思いが伝わるよう表現を工夫する 漢詩		古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古語特有の表現などについて理解する。 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。	
叙述を基に内容を的確に捉える 『徒然草』『ある人、弓射ることを習ふに』 『竹取物語』『天人の迎へ』 『平家物語』『木曾の最期』 『枕草子』『雪のいと高う降りたるを』 『雑説』韓愈		古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古語特有の表現などについて理解する。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。	
ものの見方を捉え内容を解釈する 『徒然草』『同じ心ならん人と』 『十八史略』『鶏口牛後』 『城の崎にて』志賀直哉		古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古語特有の表現などについて理解する。 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	
構成や表現の特色を評価する 『徒然草』『丹波に出雲といふ所あり』 『戦国策』『漁夫之利』 『伊勢物語』『東下り』・和歌		古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古語特有の表現などについて理解する。 本歌取りや見立てなど我が国の言語文化に特徴的な表現の技法と効果について理解する。 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。	
背景や他の作品との関係を踏まえ読み深める 『羅生門』芥川龍之介・『今昔物語集』 『土佐日記』『門出』『帰京』 『山月記』中島敦・『人虎伝』李景亮		古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。	
我が国の言語文化への考えを深める 『宇治拾遺物語』『児のそら寝』 『おくのほそ道』『序』『平泉』 『論語』 詩歌（近現代編）		古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古語特有の表現などについて理解する。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。	

教科	科目	学科・学年	単位数
地理歴史	地理総合	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書		使用教材	
『わたしたちの地理総合 世界から日本へ』（二宮書店） 『新詳高等地図』（帝国書院）		『新詳地理資料COMPLETE2023』（帝国書院）	
科目の概要 と目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		ペーパーテスト	
思考・判断・表現		ペーパーテスト	
主体的に学習に取り組む態度		レポート・ワークシート	
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
地図とGISの活用 ・球面上の世界 ・国家の領域と領土問題 ・国内や国家間の結びつき ・日常生活のさまざまな地図		球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解し、日常生活で活用する力を身につける。 国家の3要素や国境のなりたちなどについて理解し、国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。 国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。 さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。地理院地図などのGISソフトウェアを利用して地理空間情報を扱い、表現する。	
生活文化の多様性と国際理解 ・自然環境 ・産業 ・言語・宗教 ・グローバル化の進展		地球規模の地形や河川がつくる地形、海岸部の地形などの特徴を理解し、それらの地形を活かした暮らしについて考察する。 気候の地域性が生まれる要因を理解し、世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。 学習の随所に含まれる関連する各地域の生活・文化に関することを、地形や気候、産業、文化などの視点から考察する。	
地球的課題と国際協力 ・人口・食料 ・居住・都市 ・資源・エネルギー ・地球環境		世界人口の急増とそれによって生じる問題を理解し、人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。各国の人口政策や諸問題について比較し、理解を深める。 人口分布とその動態を理解することにより、世界における人口・都市・資源・環境などに関わる問題を解決する糸口を探る態度を身につける。また、どのように地域が世界と結びつくべきかを考える探究的態度を身につける。	
生活圏の諸課題 ・自然環境と防災 ・持続可能な地域づくり		日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について理解する。風水害、火山、地震、津波、都市型災害などの発生について、その要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。 自らの生活圏について、調査結果や統計ツール、新旧地形図やデジタル地図、ハザードマップ、各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想する。	

教科	科目	学科・学年	単位数
地理歴史	歴史総合	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書		使用教材	
詳述歴史総合（実教出版）		明解歴史総合図説シンフォニア（帝国書院）	
科目の概要 と目標	現代世界が歴史的に形成されていく過程を知り、各地域世界の特色を理解し、文化の多様性や相互交流を広い視点から考察して歴史的思考力を培う。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		ペーパーテスト	
思考・判断・表現		ペーパーテスト、レポート、単元まとめプリント	
主体的に学習に取り組む態度		レポート、単元まとめプリント	
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
第1章 近代化への胎動 ・ヨーロッパの海外進出と市民社会 ・東アジア諸国間の貿易 ・江戸時代の日本の対外政策 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン ・19世紀のイギリスとフランス ・アメリカの発展と分裂 ・世界市場の形成 第3章 アジアの変容と日本の近代化 ・帝国主義と世界分割 2 日本の近代化 ・アヘン戦争の衝撃 ・開国と幕末政局と社会変動、明治維新 ・近代的な国際関係と国境・領土の確定 ・自由民権運動と立憲国家の成立		・近代化と世界の一体化をもたらすヨーロッパの海外進出が各地域にどのような影響を与えたかを理解する。特にアジア地域とヨーロッパとの貿易体制について考察することができる。 ・産業革命やフランス革命が近代社会主義や近代民主主義の成立・発展に及ぼした役割と、国民国家がどのように形成されたかを理解する。 ・開国とその影響、明治政府による諸制度の改革、文明開化と殖産興業、明治初期の外交などに着目し、欧米文化の影響と近代化の推移を理解する。 ・自由民権運動の展開、立憲体制の成立、条約改正、日清・日露戦争とその前後の国際環境などに着目して、近代的立憲国家の成立と国際関係の推移を理解する。また資本主義の発展と社会問題の発生、地域社会の生活と文化などに着目して、産業革命の進行による近代産業の発展と国民生活の変化を体系的に理解して、まとめることができる。	
第4章 帝国主義の時代 ・帝国主義と世界分割 ・日清・日露戦争 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦 ・ロシア革命と大戦後の日本の動向 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・戦間期の欧米 ・広がる社会運動と普通選挙、政党内閣 第6章 経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌とファシズムの台頭 ・満州事変と軍部の台頭・日中戦争 ・第二次世界大戦とアジア太平洋戦争		・帝国主義政策の背景、帝国主義政策が各地に与えた影響について、双方向から考察・理解する。日清・日露戦争によって日本が帝国主義の傾向を示してきたことについて考察することができる。 ・対外政策の推移、第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響などに着目して、国際社会と日本のかかわりを理解する。また政党の成長とその基盤、社会運動の活発化、大衆社会の成立と生活文化などに着目して、政治の動向及び文化の特色を理解し、表現することができる。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響について、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連づけたりして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	
第6章 経済危機と第二次世界大戦 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 ・国際連合と戦後世界 ・冷戦の開始・展開・終結 ・核兵器の歴史 ・各地域における問題（地域紛争等）		・第二次世界大戦後の国際秩序形成の経緯、国際秩序の形成が社会に及ぼした影響、冷戦下の地域紛争について、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連づけたりして、冷戦構造の構築の過程やその影響、地域紛争と冷戦の関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・経済や文化の国際的交流、科学技術の発展と世界の平和などに着目して、現代社会の動向と日本の課題及び役割を理解する。	

教科	科目	学科・学年	単位数
公 民	公 共	普通科2年、人文社会科学科2年、理数科学科2年	2
教科書		使用教材	
『高等学校 新公共』（第一学習社）		『クローズアップ公共 2023』（第一学習社） 『ニューコンパスノート公共 2023』（東京法令出版）	
科目の概要 と目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		ペーパーテスト	
思考・判断・表現		ペーパーテスト、ワークシート・レポート	
主体的に学習に取り組む態度		ペーパーテスト、振り返りシート、ワークシート・レポート	
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
第1編 公共の扉 (1) 公共的な空間を作る私たち (2) 公共的な空間における人間としての在り方 生き方 (3) 公共的な空間における基本的原理		・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを理解する。 ・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断の手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。	
第2編 自立した主体として よりよい社会の形成に参画する私たち (1) 法的な主体となる私たち ・法や規範の意義と役割 ・契約と消費者の権利・責任 ・司法参加の意義 (2) 政治的な主体となる私たち ・政治参加と公正な世論形成 ・国際社会と国家主権 ・日本の安全保障と防衛 ・国際社会の変化と日本の役割 (3) 経済的な主体となる私たち ・雇用・労働問題 ・社会の変化と職業観 ・市場経済の機能と限界 ・金融の働き ・財政の役割と社会保障 ・経済のグローバル化		・憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことを理解する。 ・よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることを理解する。 ・公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民の福祉に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。	
第3編 持続可能な社会づくりの主体となる 私たち 現代の諸課題を探究する活動		・持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につける。	

教科	科目	学科・学年	単位数
数学	数学Ⅰ	普通科1年	2
教科書		使用教材	
数学Ⅰ（数研出版）		4STEP 数学Ⅰ+A（数研出版）	
科目の概要 と目標	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能	ペーパーテスト、課題ノート等を総合的に評価する		
思考・判断・表現			
主体的に学習に取り組む態度			
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
数と式 式の計算 実数 一次不等式 集合と命題		数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算ができる。 二次の乗法公式および因数分解の公式の理解を深め、式を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形できる。 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式を解くことができる。日常の事象を数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、簡単な命題を証明することができる。	
図形と計量 三角比 三角形への応用		三角比の意味と相互関係について理解する。 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、求めることができる。 正弦定理や余弦定理を用いて辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。	
二次関数 二次関数とグラフ 二次方程式と二次不等式		二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。 二次不等式と二次関数のグラフとの関係を理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式を解くことができる。 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決することができる。	
データの分析 データの散らばり データの相関		分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味やその用い方を理解する。 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する。 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察できる。 コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。	

教科	科目	学科・学年	単位数
理科	化学基礎	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書		使用教材	
化学基礎（数研出版）		スクエア最新図説化学(第一学習社) 新課程 ニューステップアップ化学基礎(東京書籍)	
科目の概要 と目標	物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		ペーパーテスト	
思考・判断・表現		ペーパーテスト、レポート、課題・授業観察	
主体的に学習に取り組む態度		レポート、課題・授業観察	
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
物質の構成 『純物質と混合物』 『物質とその成分』 『物質の三態と熱運動』		・純物質と混合物の違いが何であるか説明できる。 ・いろいろな物質について、単体と化合物に分類することができる。 ・気体分子の熱運動を視覚的に示すことができる。	
物質の構成粒子 『原子とその構造』 『イオン』 『周期表』		・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について説明できる。 ・原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいか判断できる。 ・周期表の中に周期律が見いだせること、周期律は価電子の数の周期的な変化によることに気づく。	
粒子の結合 『イオン結合と結晶』 『共有結合と分子』 『配位結合』 『分子間にはたらく力』 『高分子化合物』 『共有結合の結晶』 『金属結合と金属結晶』		・イオン結晶を構成する陽イオンと陰イオンの種類から、イオン結晶の名称と組成式の組み立て方を表現できる。 ・さまざまな分子を電子式、構造式で表し、その構造を考えることができる。 ・極性を電気陰性度の違いによる電荷のかたよりと分子の形から説明できる。 ・分子からなる物質、共有結合の結晶、高分子化合物の構造・粒子間にはたらく力とその性質の関係が理解できる。 ・金属の性質を自由電子の存在から説明できる。	
物質と化学反応式 『原子量・分子量・式量』 『物質質量』 『溶液の濃度』 『化学反応式と物質質量』		・原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。 ・原子の相対質量をもとに、分子の質量を考えることができる。 ・モル質量の概念を使い、粒子数・質量と物質質量に関する計算ができる。 ・計算により濃度を求めることができる。 ・化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積の変化でとらえることができる。	

酸と塩基の反応 『酸・塩基』 『水素イオン濃度と pH』 『中和反応と塩』 『中和滴定』	・ 酸・塩基の性質を H^+ と OH^- で考える方法と、H^+ の授受で考える方法から酸と塩基を見きわめられる。 ・ pH の値から酸性、塩基性の強弱が判断できる。 ・ 中和滴定の実験により濃度未知の酸や塩基の濃度を求めることができる。 ・ 塩の水溶液の酸性・塩基性が判断できる。
酸化還元反応 『酸化と還元』 『酸化剤と還元剤』 『金属の酸化還元反応』 『酸化還元反応の利用』	・ 電子の授受が酸化還元の本質であることがわかる。 ・ 酸化数を求めることによって酸化還元を考察することができる。 ・ 酸化還元の化学反応式を酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくれるようになる。 ・ 酸化還元反応の量的関係を数値計算により求めることができる。 ・ 金属がイオンになる場合のなりやすさを実験から判断できるようになる。 ・ 金属の製錬は酸化還元反応を利用したものであることがわかる。

教科		科目	学科・学年	単位数
理科		地学基礎	普通科1年	2
教科書			使用教材	
『高等学校 地学基礎』（数研出版）			『ニューステージ 新地学図表』（浜島書店） 『リードα地学基礎』（数研出版）	
科目の概要と目標	地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
学習状況の観点		評価方法		
知識・技能		ペーパーテスト		
思考・判断・表現		ペーパーテスト、レポート・ワークシート		
主体的に学習に取り組む態度		ペーパーテスト、振り返りシート		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等		
第1編 活動する地球	第1章 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 2. 地球の構造	地球の形と大きさの測定のしかた、地球内部の層構造を理解する。 地球の形と大きさは、測定方法の歴史を踏まえて学ぶ。また、地球内部は構成物質の違いから、地殻・マントル・核に分けられること、および変形のしやすさによる違いから、リソスフェア・アセノスフェアに分けられることを理解する。		
	第2章 プレートの運動 1. プレートテクトニクスと地殻変動 2. プレート運動のしかた	地球の表面は、十数枚のプレートでおおわれており、それぞれが別の方向に動いているため、その境界で様々な地殻変動が起こることを理解する。プレート境界では、断層や褶曲などの地質構造が形成されたり、変成作用が生じたりすることも学ぶ。 また、プレート運動の原動力についても理解する。		
	第3章 地震 1. 地震 2. 地震の分布 3. 地震災害	地震発生のしくみを、プレート運動と関連付けて学ぶ。また、地震波の性質や、プレート境界と地震の分布の関係についても理解する。 さらに、日本付近で発生する地震について理解を深めるとともに、地震によってどのような災害が発生し、どのような対応が必要かを理解する。		
	第4章 火山 1. 火山活動 2. 火成岩 3. 火山がもたらす恵みと災害	火山噴火のしくみ、多様な噴火活動と火山地形、マグマが発生するしくみを学ぶ。火山活動はプレート運動と関連があり、火山の分布はプレート境界に多いことを理解する。また、火成岩の特徴や分類についても学ぶ。 さらに、日本における活火山を知り、火山災害への対応だけでなく、火山の恵みについても理解する。		
第2編 移り変わる地球	第1章 地層の形成 1. 堆積作用と堆積岩 2. 地層の形成	堆積作用・侵食作用で形成される陸上と海底の地形や、堆積岩の形成過程を学ぶ。また、土砂災害の種類についても学ぶ。 また、地層の重なり方や変形のしかた、堆積構造を観察することで、地層の本来の層序や堆積環境がわかることを理解する。		
	第2章 古生物の変遷と地球環境 1. 大気の変遷 2. 地球全体の熱収支	地球環境と古生物は互いに影響を及ぼしあって変遷し、現在の姿があることを理解する。その学びの中で、地球環境や古生物について調べる方法や地質時代の区分のしかたを理解し、時間の長さを感じ覚的にとらえる。また、人類の進化についても学ぶ。		
第3編 大気と海洋	第1章 地球の熱収支 1. 大気の変遷 2. 地球全体の熱収支	地球の大気が、気温の変化から4つの層に分けられていることを理解する。特に、対流圏で様々な気象現象のほとんどが起きていることを学ぶ。 また、太陽放射エネルギーと地球のエネルギー収支について理解する。地球の自然環境は、地球のエネルギー収支のつりあいの上に成り立っていることを学ぶ。		
	第2章 大気と海水の運動 1. 大気の大循環 2. 海水の運動 3. 日本の天気と気象災害	大気や海水の大循環は、緯度方向の熱収支の不均衡を是正するためのものであることを理解する。また、長い時間をかけてめぐる海洋の鉛直方向の循環を学ぶ。 日本の各季節の天気の特徴を理解し、気象災害について学び、防災に役立てる。		
第4編 地球の環境	第1章 地球の環境と日本の自然環境 1. 気候の自然変動 2. 人間活動による環境変化 3. 日本の自然環境	地球を構成する大気、海洋、固体地球、生物の間には絶えず相互作用があることを踏まえ、気候の自然変動や人間活動による環境変化を、全地球的な空間スケール、および長期的な時間スケールでとらえて理解し、考える力を身につける。 また、日本は、特徴的な地形や気候によって、豊かな自然環境が育まれていることを理解する。一方で、多発する自然災害に対応する必要があることも学ぶ。		
第5編 太陽系と宇宙	第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体 2. 太陽 3. 太陽系の誕生と現在の地球	太陽系を構成する天体について理解を深める。惑星の特徴、太陽の表面のようすやエネルギー源、太陽の活動について学ぶ。また、太陽および太陽系の形成過程を学び、地球上に生命が誕生した要因を理解する。		
	第2章 宇宙の誕生 1. 宇宙の誕生	銀河系の構造を理解し、その中の太陽系の位置を学ぶ。また、ビッグバンで始まった宇宙の誕生と変遷を学ぶ。		

教科	科目	学科・学年	単位数
理科	物理基礎	普通科2年	2
教科書		使用教材	
『物理基礎』（数研出版）		『新編アクセス総合物理』（浜島書店） 『改訂版フォトサイエンス物理図録』（数研出版） 『物理実験テキスト』（富山県理化学会）	
科目の概要 と目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
評価方法	ペーパーテスト、授業中の様子、実験の取り組みやレポート、課題から総合的に評価する。		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
運動とエネルギー ・運動の表し方 ・運動の法則 ・仕事と力学的エネルギー		・物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解する。物体が直線運動する場合の加速度を理解する。 ・物体に働く様々な力について理解し、それらのつり合いについて理解する。 ・運動の三法則を理解する。 ・力学的エネルギーについて理解し、仕事と力学的エネルギーの関係を理解する。 ・加速度運動、運動の法則、力学的エネルギー保存の法則を、実験を通して理解する。	
様々な物理現象とエネルギーの利用 ・熱 ・波 ・電気 ・物理学と社会		・熱運動の視点をもつこと。熱の移動および熱と仕事の変換について理解する。 ・波の性質を理解する。音波（弦の振動を含む）の性質を理解する。 ・物質によって抵抗率が異なることを理解する。交流の発生、送電および利用について、基本的な仕組みを理解する。 ・水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用について、物理学的な視点から理解する。 ・物理基礎で学んだ事柄が、日常生活やそれを支えている科学技術と結びついていることを理解する。 ・比熱、気柱の共鳴、電気抵抗について、実験を通して理解する。	
備考 中学校理科との関連を考慮しながら、物理学の基本的な概念の形成を図るとともに、物理学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。			

教科	科目	学科・学年	単位数
理科	生物基礎	普通科2年、人文社会科学科2年	2
教科書		使用教材	
高等学校 生物基礎（数研出版）		『新課程二訂版 スクエア最新図説生物neo』（第一学習社） 『新課程リードα生物基礎』（数研出版） 『生物実験テキスト』（富山県高等学校生物教育研究会）	
科目の概要 と目標	生物や生命現象についての観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な自然観を養う。また他の自然科学分野の知識と融合した総合的な自然観を養う。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能	ペーパーテスト、授業中の様子、実験の取り組みやレポート、課題から総合的に評価する。		
思考・判断・表現			
主体的に学習に取り組む態度			
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
生物の特徴 ・生物の多様性と共通性 ・生命活動とエネルギー		・生物の備え持つ多様性と共通性を理解する。 ・全ての生物は様々な生命活動にATPをエネルギーとして利用していることを理解する。	
遺伝子とそのはたらき ・生物と遺伝子 ・遺伝情報の分配 ・遺伝情報とタンパク質の合成		・1つ1つの細胞にはDNAが存在する。遺伝情報は塩基配列のかたちでDNAに収められていることを理解する。 ・細胞が分裂するときには、全く同じ遺伝情報を持つDNAが2つ作られ、それが2つの細胞に正確に分配されることを理解する。 ・DNAの遺伝情報はmRNAに写し取られた後、アミノ酸配列に置き換えられてタンパク質と成ることを理解する。	
生物の体内環境の維持 ・体内環境 ・体内環境を維持するしくみ ・免疫		・心臓の働きにより体液は循環し、体内環境が保たれている。また、肝臓や腎臓は体液の成分を一定に保つはたらきをしていることを理解する。 ・体内環境は自律神経やホルモン系によって一定の範囲に保たれていることを理解する。 ・体内には病原体などの異物を認識し、排除することで体内環境を保つしくみがあることを理解する。	
生物の多様性と生態系 ・植生の多様性と遷移 ・バイオームとその分布 ・生態系とその保全		・地球上には森林や草原など、様々な植生が見られる。これらは長期的視点で見ると移り変わっていることを理解する。 ・気候や降水量の違いによって地球上にはさまざまなバイオームが存在することを理解する。 ・生態系では物質が循環するとともに、エネルギーが移動していることを理解する。また生態系のバランスは変動しているがその幅は一定の範囲内に保たれていることを理解する。	

教科	科目	学科・学年	単位数
保健体育	体育	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書		使用教材	
現代高等保健体育（大修館）		ステップアップ高校スポーツ（大修館）	
科目の概要 と目標	・ 各種の運動の合理的実践を通して運動技能を高める。 ・ 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 ・ 体の調子を整え、体力の向上を図る。 ・ 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		スキルテスト（体育実技）ペーパーテスト（体育理論）	
思考・判断・表現		行動観察（体育実技）ペーパーテスト（体育理論）	
主体的に学習に取り組む態度		行動観察（体育実技）ペーパーテスト（体育理論）	
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
体づくり運動 青年体操（男子）、スポーツテスト		正しい体の使い方を理解するとともに、主体的に、お互いが協力して取り組むことができる。	
体育理論 スポーツの発祥と発展		スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について理解させる。	
サッカー（男子） 基本的スキルとゲーム		パスやドリブル、シュートなどの状況に応じたボール操作ができるようにする。 仲間と連携した動きを高めて、ゲーム展開できるようにする。	
バレーボール（女子） ボールコントロールとゲーム		状況に応じたパスやトス、アタックなどのボールコントロールができる。 チームメイトと連携した動きを高めて、ゲームができるようにする。	
柔道、剣道（男子） 基本動作、得意技の習得		相手の多様な動きに応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて攻防を展開できるようにする。	
ダンス（女子） 創作ダンスの作品創作、発表		感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。	
バスケットボール（男子） 基本的スキルとゲーム		状況に応じたパスやドリブル、シュートなどのボール操作ができる。 チームメイトと連携した動きを高めて、ゲーム展開できるようにする。	
バドミントン（女子） 各種ストロークとゲーム		各種ストロークやサービスなどの安定したシャトル操作ができる。 相手に応じた作戦を立てて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わう。	

教科	科目	学科・学年	単位数
保健体育	体育	普通科2年、人文社会科学科2年、理数科学科2年	2
教科書		使用教材	
現代高等保健体育改訂版（大修館）		ステップアップ高校スポーツ（大修館）	
科目の概要 と目標	・各種の運動の合理的実践を通じて運動技能を高める。 ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 ・体の調子を整え、体力の向上を図る。 ・公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		スキルテスト（体育実技）ペーパーテスト（体育理論）	
思考・判断・表現		行動観察（体育実技）ペーパーテスト（体育理論）	
主体的に学習に取り組む態度		行動観察（体育実技）ペーパーテスト（体育理論）	
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
体づくり運動 青年体操（男子）スポーツテスト		体の正しい使い方を理解するとともに、主体的に、お互いが協力して取り組むことができる。	
体育理論 運動・スポーツの学び方		運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための効果的な学び方を理解する。	
ソフトボール 基本的スキルとゲーム		状況に応じたバット操作と走塁、安定した捕球や送球と状況に応じた守備などの動きを高めて、ゲーム展開できるようにする。	
バドミントン（女子） 各種ストロークとゲーム		各種ストロークやサービスなどの安定したシャトル操作ができる。 相手に応じた作戦を立てて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わう。	
柔道、剣道（男子） 基本動作、得意技の習得		相手の多様な動きに応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて攻防を展開できるようにする。	
ダンス（女子） 創作ダンスの作品創作、発表		感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。	
バスケットボール（女子） 基本的スキルとゲーム		状況に応じたパスやドリブル、シュートなどの状況に応じたボール操作ができるようにする。 仲間と連携した動きを高めて、ゲーム展開できるようにする。	

教科	科目	学科・学年	単位数
保健体育	体育	普通科3年、人文社会科学科3年、理数科学科3年	2
教科書		使用教材	
現代高等保健体育改訂版（大修館）		ステップアップ高校スポーツ（大修館）	
科目の概要 と目標	・ 各種の運動の合理的実践を通じて運動技能を高める。 ・ 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 ・ 体の調子を整え、体力の向上を図る。 ・ 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。		
評価方法	スキルテスト・行動観察（体育実技）、ペーパーテスト（体育理論）		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
体づくり運動 スポーツテスト		体の使い方を理解するとともに、主体的に、お互いが協力して取り組むことができる。	
体育理論 豊かなスポーツライフの設計		生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計の仕方について理解する。	
ダンス 越中おわら節、チャチャチャ、ピートイット		踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きとリズムで、仲間と交流したり、発表したりする。	
選択制体育 A ソフトボール バレーボール 卓球		生徒が自分たちで学習計画を立案し、自主的に学習を進めていくことができる。 生徒自身で学習内容や目標を決め、仲間と協力しながら実践し、反省し、そして次の授業に生かしていくことができる。	
選択制体育 B バスケットボール バドミントン 卓球		生徒が自分たちで学習計画を立案し、自主的に学習を進めていくことができる。 生徒自身で学習内容や目標を決め、仲間と協力しながら実践し、反省し、そして次の授業に生かしていくことができる。	

教科	科目	学科・学年	単位数
保健体育	保健	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	1
教科書		使用教材	
現代高等保健体育（大修館）		図説現代高等保健（大修館）	
科目の概要 と目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を大切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能	ペーパーテスト		
思考・判断・表現	ペーパーテスト、レポート		
主体的に学習に取り組む態度	ペーパーテスト		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
現代社会と健康 健康の考え方と成り立ち 生活習慣病の予防と回復 運動、食事、休養と健康 喫煙、飲酒、薬物乱用 精神疾患 感染症 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境作り		さまざまな健康の考え方、健康を成り立たせている要因について説明できる。 生活習慣病の種類と要因について、一次予防、二次予防について説明できる。 健康と運動・食事・休養の関係について説明できる。 喫煙、飲酒が健康に及ぼす影響、薬物乱用が心身や社会に及ぼす影響について説明できる。 精神疾患についての発病の要因、予防の方法、治療について説明できる。 感染症とは何か、感染症の予防について説明できる。 意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 社会環境の健康への影響について例を挙げて説明できる。	
安全な社会生活 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法		事故の実態と被害の実態、事故の発生要因について説明できる。 安全のために必要な個人の行動、安全のために必要な環境整備について説明できる。 交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備、交通事故における責任を3つに分けて説明できる。 応急手当の意義について説明できる。 日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 心肺蘇生法と手順について説明できる。	

教科	科目	学科・学年	単位数
保健体育	保健	普通科2年、人文社会科学科2年、理数科学科2年	1
教科書		使用教材	
現代高等保健体育改訂版（大修館）		図説現代高等保健改訂版（大修館）	
科目の概要 と目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を大切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能	ペーパーテスト		
思考・判断・表現	ペーパーテスト、レポート		
主体的に学習に取り組む態度	ペーパーテスト		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
生涯を通じる健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶 加齢と健康 高齢者のための社会的取り組み 保健制度とその活用 医療制度とその活用 医薬品と健康 さまざまな保健活動や対策		思春期にみられる体の変化と健康課題について説明できる。 異性との人間関係や性情報に対して、どのようなことに配慮した行動が必要か説明できる。 結婚に際して健康面から考慮すべきことは何か、結婚生活を健康的なものにしていくためには何が必要か説明できる。 妊娠・出産期を健康に過ごすために、本人や周囲の人が配慮すべきことは何か説明できる。 妊娠を望まないときに、私たちがとるべき行動を説明できる。 中高年期を健やかに過ごすためには、どのような工夫が必要か説明できる。 高齢者が安心して暮らせるための取り組みについて説明できる。 どのような保健活動がなされ、どのような保健サービスが行われているか説明できる。 医療サービスを活用するためにはどのようなことに留意するとよいか、医薬品を正しく使用するとはどういうことか説明できる。	
社会生活と健康 大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策 環境衛生活動のしくみと働き 食品衛生生活のしくみと働き 食品と環境の保健と私たち 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活		大気汚染・水質汚濁・土壌汚染はどのようにして起こるのか説明できる。 健康被害を防ぐための具体的な対策について説明できる。 環境衛生活動のしくみや働きはどのようにになっているか説明できる。 食品が私たちのもとに届く間に、どのように安全の確保が行われているか説明できる。 安全な食品を確保する取り組み、そして環境を汚染しない取り組みに対して、私たちにどのような役割が求められているか説明できる。 働く中で健康を損なう原因、対処法について説明できる。 労働災害を防ぐためには、どのような対策が必要か説明できる。 心身共に健康な状態で働くための取り組みや、余暇の活用の仕方について説明できる。	

教科	科目	学科・学年	単位数
芸術	音楽Ⅰ	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書		使用教材	
高校生の音楽1（教育芸術社）		MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽（啓隆社）	
科目の概要 と目標	音楽の幅広い活動を通して、見方・考え方を働かせ、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。 感性を高め、創造的な表現や鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能	表現、小テスト、レポート、授業観察		
思考・判断・表現	表現、ワークシート、レポート、授業観察		
主体的に学習に取り組む態度	表現、振り返りシート、授業観察		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
声の魅力を探究しよう。 曲想を生かした歌い方、発声の方法を学び、楽曲の曲想を生かした歌い方を工夫する。（歌唱） 日本歌曲や外国歌曲に親しむ。		創造的な表現を工夫したり、音楽のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 歌う活動に関心を持ち、楽曲の内容を主体的に表現できる。 日本歌曲の斉唱や合唱を通して、美しい日本の原風景を表現した曲のよさを味わう。歌詞の意味を情感豊かに表現できるよう、歌い方を工夫する。イタリア語やドイツ語による歌曲の独唱を通して、原語による歌唱の良さを味わう。	
リズムアンサンブルや即興的なリズム表現の楽しさを味わう。（創作）		リズムの組み合わせの面白さ、表現の豊かさを感じながら主体的・協働的に取り組むことができる。	
簡単な旋律をつくり、和音伴奏をつける活動を通して、作曲の楽しさを味わう。（創作） 創作活動（編曲、グループ創作）に意欲的に取り組み、イメージを持って音楽をつくる。 記譜法を学び、記録の方法を工夫する。		旋律をつくり、反復・変化などの手法を活用し、副次的な旋律や和音をつけてイメージを持って創作することができる。 表現したい音楽のイメージをもって音や音楽の質感を感じ取り、音楽の仕組みを理解しながら、音楽を構成していけるよう創作活動に取り組むことができる。 和音の役割や和音進行を理解して創作活動を行うことができる。	
各時代の音楽（鑑賞） 音楽史の各時代の特徴を理解し、それぞれの時代の音楽のよさを味わう。		各時代の音楽に関心を持ち、音色、速度、旋律、リズム、強弱、テクスチャ、形式、構成を知覚し、特徴や時代背景を理解して聴くことができる。 音楽のよさや美しさを味わい、曲や演奏に対する評価とその根拠について考えることができる。	
ギターの基本的な奏法を理解して、アンサンブルを楽しもう。（器楽）		基本的なギターの演奏技能を身につけることができる。 ギターのアンサンブルに意欲的に取り組み、表現意図をもって演奏することができる。	
郷土の伝統音楽や世界の諸民族の音楽に触れよう。 世界の諸民族の音楽の特徴を理解し、その雰囲気を味わう。		わが国の伝統音楽の特徴を味わいながら聴いたり歌ったりできる。 世界各地域の風土と音楽との関わり、歴史的背景や特徴を理解して鑑賞することができる。	

教科	科目	学科・学年	単位数
芸術	美術Ⅰ	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書		使用教材	
高校生の美術1（日本文教出版）			
科目の概要 と目標	・作品制作や鑑賞を通して感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・身近なものや自己を深く見詰め、発見したことや感じたことを心豊かに表現することができる。 ・中学校の学習で身につけた基本的なデッサン力、色彩・構図に関する知識、材料や用具の適切な使い方等の技能をさらに伸ばし、意図に応じて多様な表現方法の工夫ができる。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		作品、レポート	
思考・判断・表現		ワークシート、レポート	
主体的に学習に取り組む態度		振り返りシート	
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
(絵画・鑑賞) オリエンテーション 中学校までの学習内容と絵画表現における基礎的事項の確認		・構図の基本的な考え方が理解する。 ・作品を制作した作家のねらいや時代背景に興味・関心を持つ。	
(絵画・彫刻)－スケッチ－ 観察による表現（スケッチ）		・鉛筆をナイフで削ることができる。 ・鉛筆を用いてモチーフを短時間で表現することができる。	
(絵画・彫刻)－デッサン－ 観察による表現（鉛筆デッサン）		・モチーフの構造を理解し、正確に形を把握する。 ・モチーフを面でとらえ、明暗を表現して立体感が表現する。	
(絵画)－静物画－油彩による静物画 観察による表現（油彩画の制作）		・画面構成を工夫して、構図を考える。 ・油絵の具の特徴、乾燥と酸化の違い、油絵の道具の使い方について理解する。 ・油絵の具の特徴を生かし、画面全体を意識して描く。 ・モチーフの色彩、陰影、質感をとらえて制作する。	
(絵画・鑑賞) 油彩画の鑑賞（生徒作品）		・多様な表現方法を認め、作者の思いに共感する。	
(絵画)－人物画－油絵による自画像 構想による表現（油彩画制作）		・目に見える世界だけが現実ではなく、心の中にある世界もまた真実であるということに気づき、描いていく。 ・画肌（マチエール）の作り方や筆触（タッチ）について理解し、表現を工夫する。	
(絵画・鑑賞) 油彩画の鑑賞（生徒作品）		・多様な表現方法を認め、作者の思いに共感する。	
(鑑賞・デザイン)－パッケージデザイナー 作品鑑賞		・パッケージの機能や働きについて考え、理解する。	
(デザイン)－パッケージデザイナー 構想による表現（アイデアスケッチ）		・作品の目的や美しさの調和を考え構想を練り主体的に制作する。 ・中に入れるものから想像力を働かせ、作品の目的や美しさの調和を考え、主体的に制作する。	
(デザイン)－パッケージデザイナー デザインによる表現（制作）		・意図に応じて材料の特性を生かし、計画や手順を吟味して制作する。	
(デザイン・鑑賞) 作品鑑賞（生徒作品）		・作品から作者の意図と表現の工夫を感じ取り、作品が使用される場所や目的との関係、機能や工夫などについて多面的に理解を深める。	
(鑑賞)－美術館に行こう－ 鑑賞（高岡市美術館）		・高岡市美術館で直接作品に触れることによって、感性を磨く。	

教科	科目	学科・学年	単位数
芸術	書道Ⅰ	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書		使用教材	
書Ⅰ（光村図書）		なし	
科目の概要 と目標	書道史の鑑賞や表現方法の学習により、書道の基礎知識および基本技術を習得する。 創作の学習を通じて自ら工夫する表現の喜びを体験し、書を愛好する態度を養う。 伝統的表現形式等、書の周辺文化について理解を深める。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能	作品・ワークシート		
思考・判断・表現	作品・ワークシート		
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
漢字の書 書体の変遷 漢字の鑑賞と表現（臨書） 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛瀨造像記 蘭亭序 曹全碑 真草千字文 漢字の書の創作		漢字の書体の変遷を学ぶ。 唐代楷書の完成、四大家について知り、さまざまな楷書の書風と表現を学ぶ。 ・北魏書の魅力、方筆と円筆の表現を学ぶ。 ・行書の基本用筆を学び、書聖王羲之について知る。平安の三筆、三蹟について知る。 ・各書体の基本用筆を学ぶ。 ・倣書により、古典の特色や技術を応用して創作的に表現する。 ・作品鑑賞し、表現の要素を把握する。 ・題材を考える。イメージ化する。 ・構成、大小の変化、墨色、用具用材の工夫等を考えて表現の工夫をする。 ・互評会にて、自作について説明し合ったり、他者の意図を聞いたりする。	
漢字仮名交じりの書 漢字仮名交じりの書の創作		・作品を鑑賞する。 ・題材を考えて、言葉と表現の関連を図りイメージ化する。 ・古典の書風（楷書・行書）を取り入れて、表現の工夫をする。 ・漢字に合う仮名（ひらがな・カタカナ）を考える。 ・用具用材・紙面構成を工夫する。 ・互評会にて、自作について説明し合ったり、他者の意図を聞いたりする。	
仮名の書 仮名の成立・鑑賞 単体、連綿、散らし書き 高野切 寸松庵色紙		・平仮名、片仮名、変体仮名等の成立について知る。 ・古筆の鑑賞をし、仮名の美を味わう。 ・仮名の基本運動、単体が仮名らしい線で書ける。 ・仮名の初歩的古典を臨書する。 ・基本的な連綿ができるようになる。 ・創作（散らし書き）を書けるようにする。	
篆刻（姓名印の制作）		作品用の姓名印を制作する。	
生活の中の書 硬筆・表装・看板文字ほか		各種書式にあった表現をする。 簡易な表装を学ぶ。 生活の中の書に目を向ける。	

教科		科目	学科・学年	単位数
外国語		英語コミュニケーションⅠ	普通科・1年	3
教科書		使用教材		
ELEMENT English Communication I (啓林館)		ELEMENT English Communication I ノート " Workbook Advanced (啓林館) 英語の発音ノート (数研出版)		
科目の概要と目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
学習状況の観点		評価方法		
知識・技能		ペーパーテスト、パフォーマンステスト		
思考・判断・表現				
主体的に学習に取り組む態度				
単元・学習内容		指導事項・評価規準等		
LESSON 1 Intercultural Relationships		・強弱のリズム・イントネーションを聞き取る。 ・海外の高校生に日本の文化を紹介する計画についての会話を聞き取る。 ・Scidmore's Cherry Treesを読み、概要を理解する。 ・英語の5文型、受動態、to不定詞を用いた文の構造を理解する。 ・ワシントンの桜についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・自分のことについてクラスメートと情報を伝え合う。 ・アメリカからの交換留学生に、自己紹介のメールを書く。		
LESSON 2 Love beyond Species		・つながりやすい音・変化しやすい音を聞き取る。 ・ペットを友人に預ける際の注意点を聞き取る。 ・Christian the Lionを読み、概要を理解する。 ・現在完了形／現在完了進行形、分詞の限定用法を用いた文の構造を理解する。 ・ペットとして飼われたライオンの物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・ペットを飼いたい子どもと反対する親という設定でロールプレイを行う。 ・Christian the Lionのストーリー・レポートを書く。		
LESSON 3 Contributing to Our Planet		・消える音・弱くなる音、短縮形を聞き取る。 ・使い捨てのビニール袋とエコバッグのメリット・デメリットを聞き取る。 ・Bye Bye Plasticsを読み、概要を理解する。 ・関係代名詞、使役動詞を用いた文の構造を理解する。 ・バリ島のプラスチック問題についての英文を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・身近な環境問題とその解決策について話し合う。 ・アメリカからの交換留学生に、ボランティアに参加するように誘うメールを書く。		
Lesson 4 Messages for World Peace		・博物館を訪れた生徒に先生がしている諸注意を聞き取る。 ・Twice Bombed, Twice Survivedを読み、登場人物の心情を理解する。 ・過去完了形、知覚動詞を用いた文の構造を理解する。 ・二重被爆についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・山口さんの願いを継ぐために自分たちがすべきことについてディスカッションをする。 ・平和について自分の意見を書く。		
Lesson 5 Respecting Each Other		・身近な人や物について話している会話を聞き取る。 ・Nobody's Perfectを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・関係代名詞のwhat、関係副詞を用いた文の構造を理解する。 ・野球の投手と誤審を行った審判についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・イラストを見て、状況を説明する。 ・示された状況に沿って感謝の気持ちを伝えるとともに行事に招待する。 ・困難な状況にある友人を元気づける電子メールを書く。		
Lesson 6 Language and Culture		・ラジオニュースを聞き取る。 ・The Power of Wordsを読み、概要を理解する。 ・関係代名詞の非限定用法、分詞構文を用いた文の構造を理解する。 ・作家のスピーチを読み、その内容についてリテリングを行う。 ・好きなアニメや漫画、映画について発表する。 ・相手の話に対して興味があることを示す。 ・日本文化が楽しめる場所を例示しながら説明する文章を書く。		
Lesson 7 Technology and Discoveries		・科学イベントのスケジュールと講演の内容を聞き取る。 ・Serendipityを読み、概要を理解する。 ・形式主語のit、be動詞の補語になるthat節を用いた文の構造を理解する。 ・偶然の発見による発明についての英文を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・歴史上最も偉大な発明は何かについて話し合う。 ・電子書籍より紙の書籍を好む理由を対比しながら書く。		
Lesson 8 Standing Up for Human Rights		・人権を守る試みについての会話を聞き取る。 ・Playing the Enemyを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・仮定法過去／仮定法過去完了、過去完了進行形を用いた文の構造を理解する。 ・ネルソン・マンデラとラグビーについての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・ある人物の経歴についてまとめ、発表する。 ・Playing the Enemy で人権に関する状況がどのように変わったかを時系列に沿って書く。		

教科		科目	学科・学年	単位数
家庭		家庭基礎	普通科1年、人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書			使用教材	
家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)			生活学Navi 資料+成分表 (実教出版)	
科目の概要と目標	1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。			
	2. 家族や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。			
	3. 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			
学習状況の観点		評価方法		
知識・技能		ペーパーテスト、実習レポート		
思考・判断・表現		ペーパーテスト、ワークシート・振り返りシート、レポート課題、授業中の行動観察		
主体的に学習に取り組む態度		ワークシート・振り返りシート、レポート課題、授業中の行動観察		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等		
生涯を見通す	・ 人生を展望する	・ 自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。		
人生を作る	・ 家族、家庭を見つめる	・ よりよい家庭を生活を実現するために、家族、家庭と私たちの生活の結びつきを理解する。 ・ 社会制度としての家族や家族と法律を理解する。		
子どもと共に育つ	・ 命を育む ・ 子どもの育つ力を知る ・ これからの保育環境	・ 命に対する責任や次世代を育む責任を持つために、性に関する健康について理解する。 ・ 子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・ 現代の子育て環境の変化や課題について理解する。		
超高齢社会を生きる	・ 高齢者の心身の特徴 ・ これからの超高齢社会	・ 加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・ 高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・ 高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。		
共に生き、共に支える	・ 社会保障の考え方 ・ 共に生きる	・ 共に支え合う社会の実現に向けて、社会保障制度など支援体制について理解する。 ・ 多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて個人、地域がどのような役割を果たし、つながっていけばいいか考えて実践しようとする。		
食生活を作る	・ 食生活の課題 ・ 食事と栄養・食品 ・ 食生活の選択と安全 ・ 調理の基礎 ・ これからの食生活	・ 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養素、食品、調理及び食品衛生などの基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・ 健康で安全な食生活を支える上での課題を探る。 ・ 調理や加工により美味しさが変化することを科学的に捉える。 ・ 食生活を持続可能にするように情報を適切に判断し、広い視野で考える。		

衣生活を作る	・被服の役割 ・被服の管理 ・これからの衣生活	・健康で快適な衣生活を営むために必要な被服材料、被服管理などの基礎的、基本的な知識と技術を学ぶ。 ・次世代に引き継げる衣生活のあり方を考え、資源の消費の視点で衣生活を見直す。
住生活を作る	・住居の機能 ・安全で快適な住生活 ・これからの住生活	・安全で環境に配慮した住生活を理解し、将来の自立に向けて、生活の支える生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。
経済生活を営む	・購入と支払い ・消費者の権利と責任 ・生涯の経済生活を見通す ・これからの経済生活	・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動がとれるよう、契約の重要性について理解する。 ・生涯安定した経済生活を営めるよう、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。
これからの生活を創造する	・生活をデザインする	・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。
学習を生かす	・ホームプロジェクト活動 ・学校家庭クラブ活動	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。

教科	科目	学科・学年	単位数
情報	情報 I	普通科 2 年・理数科学科 2 年・人文社会科学科 2 年	2
教科書		使用教材	
高校情報 I Python (実教出版)		情報最新トピック集 2023 (日本文教出版) ベストフィット情報 I (実教出版)	
科目の概要 と目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質能力を育成する。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能	ペーパーテスト、小テスト		
思考・判断・表現	ペーパーテスト、プレゼンテーション、レポート、ワークシート		
主体的に学習に取り組む態度	レポート、振り返りシート		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
第 1 章 情報社会	情報と情報社会 問題解決の考え方 法規による安全対策 個人情報とその扱い 著作権	情報や情報の特徴（残存性、複製性、伝播性）について学ぶ。 問題解決の手法について学ぶ 情報セキュリティについて学ぶ 個人情報とプライバシーについて学ぶ 知的財産権の分類、産業財産権や著作権の構成について学ぶ	
第 2 章 情報デザイン	コミュニケーションとメディア 情報デザインと表現の工夫 プレゼンテーション Web ページと情報デザイン	メディアリテラシーについて学ぶ 視覚的な表現の工夫について学ぶ 論文の構成や論理の展開について学ぶ Web サイトの設計や Web ページの構成を学ぶ	
第 3 章 デジタル	デジタル情報の特徴 数値と文字の表現 演算の仕組み 音の表現 画像の表現 コンピュータの構成と動作	アナログ・デジタル・デジタルデータの特徴について学ぶ 情報量・ビット・バイトについて学ぶ 数値・文字の表現について学ぶ 2 進数で表された数値の計算・論理回路について学ぶ 音・画像のデジタル化のしくみについて学ぶ コンピュータ内部の動作について学ぶ	
第 4 章 ネットワーク	ネットワークとプロトコル インターネットの仕組み Web ページの閲覧とメールの送受信 情報システム 情報システムを支えるデータベース 個人による安全対策 安全のための情報技術	LAN と WAN, 集中処理と分散処理について学ぶ ドメイン名と名前解決について学ぶ ネットワークの経路について学ぶ Web ページの閲覧・電子メールの仕組みについて学ぶ リレーショナルデータベースの特徴について学ぶ 不正アクセスへの対策について学ぶ 暗号化やデジタル署名について学ぶ	
第 5 章 問題解決	データの収集と整理 ソフトウェアを利用したデータの処理 統計量とデータの尺度 データの分布と検定の考え方 時系列分析と回帰分析 モデル化とシミュレーション	表計算ソフトウェアによるデータの可視化について学ぶ。 ヒストグラムや箱ひげ図によるデータ分析について学ぶ 尺度水準について学ぶ 検定・区間推定の考え方について学ぶ 時系列分析・回帰分析について学ぶ 確定的モデル・確率的モデルについて学ぶ	
第 6 章 プログラミング	アルゴリズムとプログラミング プログラムの設計手法 オープンデータの活用 プログラムによる 動的シミュレーション	プログラムの基本構造（順次構造、選択構造、繰り返し構造）を学ぶ 配列の仕組み・関数の機能について学ぶ 探索プログラム・整列プログラムの作成方法について学ぶ プログラムによるオープンデータの活用 シミュレーションのプログラムの作成について学ぶ 計測・制御のためのプログラミングの基本について学ぶ	

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数探究	理数科学科2年	2
教科書		使用教材	
なし		How to Research（学校作成）	
科目の概要 と目標	科学及び数学に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技能の深化、総合化を図るとともに、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		
学習状況の観点		評価方法	
知能・技能	報告書・レポート等の成果物、ルーブリック評価、発表の様子、授業中の様子		
思考・判断・表現			
主体的に学習に取り組む態度			
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
課題の設定 特定の自然の事物・現象に関する研究、自然環境の調査に基づく研究、科学や数学を発展させた原理・法則に関する研究より研究課題を設定する。		・主体的な発想により、解決の見通しが立つ課題を設定できる。 ・研究グループ内で課題の設定に関する討論ができる。	
課題研究の計画 図書室、情報ネットワーク等を活用し、課題研究方法、日程を計画する		・課題解決のための情報を適切に入手できる。 ・研究グループ内で、研究の進め方について討論し、各自が研究内容を理解する。	
課題研究 理数数学、理数理科の内容と関連させ、仮説の設定、実験による検証、データの分析解釈、推論などの探究方法を用いて課題研究を行う。		・設定した課題について、仮説を立ててその仮説を適切な実験や理論により検証できる。 ・結果の集計や処理などに当たって、コンピュータを効果的に活用できる。	
課題研究の発表 10月の中間発表、12月の研究発表をポスター発表により行う。 大学研究者より専門的な意見をもらう。		・研究内容を適切にわかりやすく伝えるポスターを作成できる。 ・発表により論理的な表現力を高め、自主的な質疑応答により理解を深める。	
報告書の作成 研究報告書を作成する。		・論理的な思考力と表現力により、「序論」「本論」「結論」からなる報告書を作成できる。	

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数数学Ⅰ	人文社会科学科１年、理数科学科１年	４
教科書		使用教材	
数学Ⅰ（数研出版） 数学Ａ（数研出版） 数学Ⅱ（数研出版）		４STEP 数学Ⅰ＋Ａ（数研出版） ４STEP 数学Ⅱ（数研出版）	
科目の概要 と目標	数と式、図形と計量、二次関数、指数関数・対数関数、データの分析及び場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能		ペーパーテスト、課題ノート等を総合的に評価する	
思考・判断・表現			
主体的に学習に取り組む態度			
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
数と式 式の計算 実数 一次不等式 集合と命題 整数		数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算ができる。 二次の乗法公式および因数分解の公式の理解を深め、式を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形できる。 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、１次不等式を解くことができる。 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、簡単な命題を証明することができる。 数量に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解し、考察することが出来る。	
図形と計量 三角比 三角形への応用		三角比の意味と相互関係について理解する。 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、求めることができる。 正弦定理や余弦定理を用いて辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。	
二次関数 二次関数とグラフ 二次方程式と二次不等式		二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。 二次不等式と二次関数のグラフとの関係を理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式を解くことができる。 二つの数量の係数に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決することができる。	
指数関数・対数関数 指数関数 対数関数		指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	
データの分析 データの散らばり データの相関		分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味やその用い方を理解する。 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する。 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察できる。	
場合の数と確率 場合の数 確率		場合の数と確率について、その有用性を認識するとともに、順列の総数や組合せの総数、事象の確率を求めることができる。	

教科		科目	学科・学年	単位数
理数		理数地学	人文社会科学科1年、理数科学科1年	2
教科書			使用教材	
『高等学校 地学基礎』（数研出版）			『ニューステージ 新地学図表』（浜島書店） 『リードα地学基礎』（数研出版）	
科目の概要と目標	地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
学習状況の観点		評価方法		
知識・技能		ペーパーテスト		
思考・判断・表現		ペーパーテスト、レポート・ワークシート		
主体的に学習に取り組む態度		ペーパーテスト、振り返りシート		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等		
第1編 活動する地球	第1章 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 2. 地球の構造	地球の形と大きさの測定のしかた、地球内部の層構造を理解する。 地球の形と大きさは、測定方法の歴史を踏まえて学ぶ。また、地球内部は構成物質の違いから、地殻・マントル・核に分けられること、および変形のしやすさによる違いから、リソスフェア・アセノスフェアに分けられることを理解する。		
	第2章 プレーートの運動 1. プレートテクトニクスと地殻変動 2. プレート運動のしかた	地球の表面は、十数枚のプレートでおおわれており、それぞれが別の方向に動いているため、その境界で様々な地殻変動が起こることを理解する。プレート境界では、断層や褶曲などの地質構造が形成されたり、変成作用が生じたりすること学ぶ。 また、プレート運動の原動力についても理解する。		
	第3章 地震 1. 地震 2. 地震の分布 3. 地震災害	地震発生のしくみを、プレート運動と関連付けて学ぶ。また、地震波の性質や、プレート境界と地震の分布の関係についても理解する。 さらに、日本付近で発生する地震について理解を深めるとともに、地震によってどのような災害が発生し、どのような対応が必要かを理解する。		
	第4章 火山 1. 火山活動 2. 火成岩 3. 火山がもたらす恵みと災害	火山噴火のしくみ、多様な噴火活動と火山地形、マグマが発生するしくみを学ぶ。火山活動はプレート運動と関連があり、火山の分布はプレート境界に多いことを理解する。また、火成岩の特徴や分類についても学ぶ。 さらに、日本における活火山を知り、火山災害への対応だけでなく、火山の恵みについても理解する。		
第2編 移り変わる地球	第1章 地層の形成 1. 堆積作用と堆積岩 2. 地層の形成	堆積作用・侵食作用で形成される陸上と海底の地形や、堆積岩の形成過程を学ぶ。また、土砂災害の種類についても学ぶ。 また、地層の重なり方や変形のしかた、堆積構造を観察することで、地層の本来の層序や堆積環境がわかることを理解する。		
	第2章 古生物の変遷と地球環境 1. 大気の変遷 2. 地球全体の熱収支	地球環境と古生物は互いに影響を及ぼしあって変遷し、現在の姿があることを理解する。その学びの中で、地球環境や古生物について調べる方法や地質時代の区分のしかたを理解し、時間の長さを感覚的にとらえる。また、人類の進化についても学ぶ。		
第3編 大気と海洋	第1章 地球の熱収支 1. 大気の変遷 2. 地球全体の熱収支	地球の大気が、気温の変化から4つの層に分けられていることを理解する。特に、対流圏で様々な気象現象のほとんどが起きていることを学ぶ。 また、太陽放射エネルギーと地球のエネルギー収支について理解する。地球の自然環境は、地球のエネルギー収支のつりあいの上に成り立っていることを学ぶ。		
	第2章 大気と海水の運動 1. 大気の大循環 2. 海水の運動 3. 日本の天気と気象災害	大気や海水の大循環は、緯度方向の熱収支の不均衡を是正するためのものであることを理解する。また、長い時間をかけてめぐる海洋の鉛直方向の循環を学ぶ。 日本の各季節の天気の特徴を理解し、気象災害について学び、防災に役立てる。		
第4編 地球の環境	第1章 地球の環境と日本の自然環境 1. 気候の自然変動 2. 人間活動による環境変化 3. 日本の自然環境	地球を構成する大気、海洋、固体地球、生物の間には絶えず相互作用があることを踏まえ、気候の自然変動や人間活動による環境変化を、地球規模的な空間スケール、および長期的な時間スケールでとらえて理解し、考える力を身につける。 また、日本は、特徴的な地形や気候によって、豊かな自然環境が育まれていることを理解する。一方で、多発する自然災害に対応する必要があることも学ぶ		
第5編 太陽系と宇宙	第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体 2. 太陽 3. 太陽系の誕生と現在の地球	太陽系を構成する天体について理解を深める。惑星の特徴、太陽の表面のようすやエネルギー源、太陽の活動について学ぶ。また、太陽および太陽系の形成過程を学び、地球に生命が誕生した要因を理解する。		
	第2章 宇宙の誕生 1. 宇宙の誕生	銀河系の構造を理解し、その中の太陽系の位置を学ぶ。また、ビッグバンで始まった宇宙の誕生と変遷を学ぶ。		
備考 立山実習による自然観察を教材内容として有効に取り入れる。				

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数数学Ⅱ	理数科学科1年、2年	6
教科書		使用教材	
1、2年： 数学Ⅱ（数研出版） 2年： 数学B（数研出版） 数学Ⅲ（数研出版）		1、2年：4STEP 数学Ⅱ+B（数研出版） 2年：4STEP 数学Ⅲ（数研出版）	
科目の概要 と目標	数学における概念や原理・法則についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。		
評価方法	ペーパーテスト、課題への取り組み、授業中の様子から総合的に評価する。		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
いろいろな式 式と証明 高次方程式		整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できる。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができる。	
数列 数列とその和 漸化式と数学的帰納法		簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	
三角関数と複素数平面 角の拡張 三角関数 三角関数の加法定理 複素数平面		角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できる。 複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解し、それらを事象の考察に活用することができる。	
図形と方程式 直線と円 軌跡と領域 平面上の曲線		座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	
極限 数列とその極限 関数とその極限		数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できる。	
微分法 微分の考え 導関数 導関数の応用		微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できる。	
積分法 積分の考え 不定積分と定積分 積分の応用		積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できる。	
統計的な推測 確率分布 統計的な推測		確率や統計についての理解を深めるとともに、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができる。	

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数数学Ⅱ	理数科学科（２年＋）３年	（５＋）６
教科書		使用教材	
２年： 改訂版 数学Ⅱ（数研出版） 改訂版 数学Ｂ（数研出版） 改訂版 数学Ⅲ（数研出版） ３年： 改訂版 数学Ⅲ（数研出版）		２年：改訂版 サクシード 数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版） 改訂版 サクシード 数学Ⅲ（数研出版） ３年：改訂版 サクシード 数学Ⅲ（数研出版）	
科目の概要 と目標	数学における概念や原理・法則についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。		
評価方法	ペーパーテスト、課題への取り組み、授業中の様子から総合的に評価する。		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
いろいろな式 式と証明 高次方程式		整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できる。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができる。	
数列 数列とその和 漸化式と数学的帰納法		簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	
三角関数と複素数平面 角の拡張 三角関数 三角関数の加法定理 複素数平面		角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できる。 複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解し、それらを事象の考察に活用することができる。	
図形と方程式 直線と円 軌跡と領域 平面上の曲線		座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	
極限 数列とその極限 関数とその極限		数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できる。	
微分法 微分の考え 導関数 導関数の応用		微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できる。	
積分法 積分の考え 不定積分と定積分 積分の応用		積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できる。	

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数物理	理数科学科2年、3年	8
教科書		使用教材	
【2年】『物理基礎』（数研出版） 【2年】『総合物理1』（数研出版） 【2年】『総合物理2』（数研出版） 【3年】『改訂版 総合物理1』（数研出版） 【3年】『改訂版 総合物理2』（数研出版）		【2年】『新編アクセス総合物理』（浜島書店） 【3年】『実践アクセス総合物理』（浜島書店） 【2、3年】『改訂版フォトサイエンス物理図録』（数研出版） 【2、3年】『物理実験テキスト』（富山県理化学会）	
科目の概要 と目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
評価方法	ペーパーテスト、授業中の様子、実験の取り組みやレポート、課題から総合的に評価する。		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
運動とエネルギー ・運動の表し方 ・運動の法則 ・仕事と力学的エネルギー		・物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解する。物体が直線運動する場合の加速度を理解する。 ・物体に働く様々な力について理解し、それらのつり合いについて理解する。 ・力学的エネルギーについて理解し、仕事と力学的エネルギーの関係を理解する。 ・加速度運動、運動の法則、力学的エネルギー保存の法則を、実験を通して理解する。	
様々な物理現象とエネルギーの利用 ・熱 ・波 ・電気 ・物理学と社会		・熱運動の視点をもつこと。熱の移動および熱と仕事の変換について理解する。 ・波の性質を理解する。音波（弦の振動を含む）の性質を理解する。 ・物質によって抵抗率が異なること、交流の発生、送電および利用について理解する。 ・比熱、気柱の共鳴、電気抵抗について、実験を通して理解する。	
力と運動、熱と気体 ・剛体のつりあい ・運動量の保存 ・円運動と万有引力 ・気体のエネルギーと状態変化		・運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方にに基づき、物体の運動を観察、実験などを通して探究し、力と運動に関する概念や原理・法則を系統的に理解し、それらを活用できる力を身につける。 ・剛体のつりあい、運動量の保存、単振動、気体の状態変化について、実験を通して理解する。	
波 ・波の性質 ・音 ・光		・水面波、音、光などの波動現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる力を身につける。 ・光の回折・干渉について、実験を通して理解する。	
電気と磁気 ・電場 ・電流 ・電流と磁場 ・電磁誘導と電磁波		・電気や磁気に関する現象を観察、実験などを通して探究し、電気と磁気に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる力を身につける。 ・電気回路、電磁誘導について、実験を通して理解する。	
原子 ・電子と光 ・原子と原子核		・電子、原子および原子核に関する現象を観察、実験などを通して探究し、原子についての基本的な概念や原理・法則を理解する。	
備考 中学校理科との関連を考慮しながら、物理学の基本的な概念の形成を図るとともに、物理学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。			

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数物理	理数科学科（2年+）3年	（4+）4
教科書		使用教材	
【2年】『改訂版 物理基礎』（数研出版）		『実践アクセス総合物理』（浜島書店）	
【2、3年】『改訂版 総合物理1』（数研出版）		『フォトサイエンス物理図録』（数研出版）	
【2、3年】『改訂版 総合物理2』（数研出版）		『物理実験テキスト』（富山県理化学会）	
科目の概要 と目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
評価方法	ペーパーテスト、授業中の様子、実験の取り組みやレポート、課題から総合的に評価する。		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
運動とエネルギー ・運動の表し方 ・運動の法則 ・仕事と力学的エネルギー		・物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解する。物体が直線運動する場合の加速度を理解する。 ・物体に働く様々な力について理解し、それらのつり合いについて理解する。 ・力学的エネルギーについて理解し、仕事と力学的エネルギーの関係を理解する。 ・加速度運動、運動の法則、力学的エネルギー保存の法則を、実験を通して理解する。	
様々な物理現象とエネルギーの利用 ・熱 ・波 ・電気 ・物理学と社会		・熱運動の視点をもつこと。熱の移動および熱と仕事の変換について理解する。 ・波の性質を理解する。音波（弦の振動を含む）の性質を理解する。 ・物質によって抵抗率が異なること、交流の発生、送電および利用について理解する。 ・比熱、気柱の共鳴、電気抵抗について、実験を通して理解する。	
力と運動、熱と気体 ・剛体のつりあい ・運動量の保存 ・円運動と万有引力 ・気体のエネルギーと状態変化		・運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方にに基づき、物体の運動を観察、実験などを通して探究し、力と運動に関する概念や原理・法則を系統的に理解し、それらを活用できる力を身につける。 ・剛体のつりあい、運動量の保存、単振動、気体の状態変化について、実験を通して理解する。	
波 ・波の性質 ・音 ・光		・水面波、音、光などの波動現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる力を身につける。 ・波の干渉、回折について、実験を通して理解する。	
電気と磁気 ・電場 ・電流 ・電流と磁場 ・電磁誘導と電磁波		・電気や磁気に関する現象を観察、実験などを通して探究し、電気と磁気に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる力を身につける。 ・電磁誘導について、実験を通して理解する。	
原子 ・電子と光 ・原子と原子核		・電子、原子および原子核に関する現象を観察、実験などを通して探究し、原子についての基本的な概念や原理・法則を理解する。	
備考 中学校理科との関連を考慮しながら、物理学の基本的な概念の形成を図るとともに、物理学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。			

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数化学	理数科学科2年、3年	7
教科書		使用教材	
化学基礎(数研出版) 化学 academia(実教出版)		スクエア最新図説化学(第一学習社) 新課程 ニューステップアップ化学基礎(東京書籍) 新課程 ニューステップアップ化学(東京書籍)	
科目の概要 と目標	(1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、現象などに関する技能を身につけるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能	ペーパーテスト		
思考・判断・表現	ペーパーテスト、レポート、課題・授業観察		
主体的に学習に取り組む態度	レポート、課題・授業観察		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
物質の構成と化学結合 『物質の構成』 『物質の構成粒子』 『粒子の結合』		・いろいろな物質について、分類することができる。 ・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の関係について説明できる。 ・周期表の中に周期律は価電子の数の周期的な変化によることに気づく。 ・各化学結合の特徴と結晶の性質との関係を理解する。	
物質の変化 『物質と化学反応式』 『酸と塩基の反応』 『酸化還元反応』		・原子量・分子量・式量の定義を理解し、物質の概念を使い、粒子数・質量と物質に関する計算ができる。 ・化学反応式の係数から物質の量的変化を質量や気体の体積の変化でとらえることができる。 ・酸・塩基の定義を理解する。 ・pHの値から酸性、塩基性の強弱が判断できる。 ・酸化・還元の定義、酸化数のつけ方を理解する。 ・イオン化傾向とは何かを理解し、金属単体の性質との関係を理解する。	
物質の状態と平衡 『状態変化』 『固体の構造』 『気体の性質』 『溶液』		・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質について理解する。 ・結晶格子の概念および結晶の構造を理解する。 ・気体の体積と圧力や温度との関係を理解する。 ・溶液のしくみ、溶解度を溶解平衡と関連づけて理解する。	
物質の変化と平衡 『化学反応と電気エネルギー』 『化学反応と熱・光エネルギー』 『反応の速さとしきみ』 『化学平衡』		・化学反応における熱および光の発生や吸収は、反応の前後におけるエンタルピーおよび化学エネルギーの差から生じることを理解する。 ・外部から加えられた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解する。 ・電池は酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出すしくみ	

	であることを理解する。 ・ 反応速度の表し方および反応速度に影響を与える要因を理解する。 ・ 可逆反応，化学平衡および化学平衡の移動を理解する。 ・ 水のイオン積，pH，弱酸，弱塩基の電離平衡，塩の加水分解，緩衝液，溶解度積について理解する。
無機物質 『非金属元素』 『典型金属元素』 『遷移元素』	・ 非金属元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連させ理解する。 ・ 金属元素の単体と化合物の性質や反応について理解する。
有機化合物 『有機化合物とその構造』 『脂肪族炭化水素』 『酸素を含む脂肪族化合物』 『芳香族化合物』	・ 有機化合物の性質や反応を観察，実験などを通して探究し，有機化合物の分類と特徴を理解する。 ・ 脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連して理解する。 ・ 酸素を含む脂肪族炭化水素の性質や反応について理解する。 ・ 芳香族化合物の構造，性質および反応について理解する。
高分子化合物 『高分子化合物』 『天然高分子化合物』 『合成高分子化合物』	・ 高分子化合物の性質や反応を観察実験を通して探究し，その特徴を理解する。 ・ 天然高分子化合物の構造や性質について理解する。 ・ 合成高分子化合物の構造や性質について理解する。

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数化学	理数科学科（2年+）3年	（3+）4
教科書		使用教材	
改訂 化学基礎（東京書籍） 化学 新訂版（実教出版）		スクエア最新図説化学（第一学習社）改訂ニューステップアップ化学基礎（東京書籍） 改訂ニューステップアップ化学（東京書籍）	
科目の概要 と目標	化学的な事物・現象について観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的自然観を育成することを目標とする。		
評価方法	ペーパーテスト、レポート、課題・授業観察		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
化学と人間生活 『化学とその役割』		・化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に人間生活に果たしている役割を理解する。	
物質の構成 『物質の成分と構成』 『原子の構造と元素の周期表』 『化学結合』		・いろいろな物質について、分類することができる。 ・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の関係について説明できる。 ・周期表の中に周期律は価電子の数の周期的な変化によることに気づく。 ・各化学結合の特徴と結晶の性質との関係を理解する。	
物質の変化 『物質と化学反応』 『酸と塩基』 『酸化還元反応』		・原子量・分子量・式量の定義を理解し、物質の概念を使い、粒子数・質量と物質量に関する計算ができる。 ・化学反応式の係数から物質の量的変化を質量や気体の体積の変化でとらえることができる。 ・酸・塩基の定義を理解する。 ・pHの値から酸性、塩基性の強弱が判断できる。 ・酸化・還元の定義、酸化数のつけ方を理解する。 ・イオン化傾向とは何かを理解し、金属単体の性質との関係を理解する。	
物質の状態と化学平衡 『状態変化』 『気体の性質』 『固体の構造』 『溶液』		・気体の体積と圧力や温度との関係を理解し、気体状態方程式を使って計算することができる。 ・理想気体と実在気体の違いを理解できる。 ・結晶格子の概念および結晶の構造について理解し、金属結晶構造を立体的に把握することができる。 ・溶液の性質の法則性を理解し、計算することができる。 ・コロイドとは何かを知り、コロイド溶液に関する事象についての知識を身につける。	
物質の変化と化学平衡 『化学反応と電気エネルギー』 『化学反応と熱・光エネルギー』 『反応の速さとしくみ』 『化学平衡』		・電池の正極、負極、電気分解の陽極、陰極での反応を理解する。 ・ファラデーの法則を理解し、電気分解の量的関係を理解する。 ・熱化学方程式の作り方を習得し、ヘスの法則を理解する。 ・反応速度の表し方、反応速度に影響を与える要因を理解する。また、その要因を活性化エネルギーにより、考察することができる。 ・化学平衡の概念を理解する。	

	・外部条件による平衡の移動を考察することができる。 ・平衡定数を使って、電離平衡、溶解度積などの計算をすることができる。
無機物質 『非金属元素』 『金属元素』	・水素、貴ガス、ハロゲン、酸素・硫黄、窒素・リン、炭素・ケイ素の単体や化合物の性質と反応、製法や用途を理解する。 ・アルカリ金属、アルカリ土類金属、アルミニウムと亜鉛、スズと鉛の単体や化合物の性質と反応、製法や用途を理解する。 ・鉄、銅、銀、マンガン、クロムの単体や化合物の性質と反応、製法や用途を理解する。 ・金属イオンと陰イオンの沈殿反応を特徴的にとらえ、これらの反応の応用として、金属イオンを分離、確認することができる。
有機化合物 『特徴と構造』 『脂肪族炭化水素』 『酸素を含む脂肪族化合物』 『芳香族化合物』	・有機化合物を構成する元素の確認方法を理解する。 ・元素分析により組成式を決定し、分子量から分子式を決定できる。 ・アルカンとシクロアルカン、アルケンとアルキンの名称、製法、構造、性質、反応および構造異性体、幾何異性体について理解する。 ・アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸とエステル、油脂とセッケンの定義、名称、分類、製法、性質、反応などを理解する。 ・各芳香族化合物の性質と生活との関係を理解し、化合物間のつながりを確認する。 ・官能基の性質の違いを利用して、有機化合物の混合物から各成分を抽出によって、分類することができる。
高分子化合物 『高分子化合物』 『合成高分子化合物』 『天然高分子化合物』	・高分子化合物の特徴と構造、重合のしかたを理解する。 ・合成高分子化合物の原料と合成法について理解し、その構造と性質との関連性を考察できる。 ・天然高分子化合物の構造や化学的性質について理解し、生体内におけるはたらきを知る。

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数生物	理数科学科2年、3年	8
教科書		使用教材	
高等学校 生物基礎（数研出版） 高等学校 生物（第一学習社）		『新課程二訂版 スクエア最新図説生物neo』（第一学習社） 『新課程リードα生物基礎』（数研出版） 『新課程版 セミナー生物』（第一学習社） 『生物実験テキスト』（富山県高等学校生物教育研究会）	
科目の概要 と目標	生物や生命現象についての観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な自然観を養う。また他の自然科学分野の知識と融合した総合的な自然観を養う。		
学習状況の観点		評価方法	
知識・技能	ペーパーテスト、授業中の様子、実験の取り組みやレポート、課題から総合的に評価する。		
思考・判断・表現			
主体的に学習に取り組む態度			
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
生物の特徴（2年次） ・生物多様性・共通性 ・生命活動とエネルギー		・生物の備え持つ多様性と共通性を理解する。 ・生物はATPをエネルギーとして利用していることを理解する。	
遺伝子とそのはたらき（2年次） ・生物と遺伝子 ・遺伝情報の分配 ・遺伝情報とタンパク質の合成		・遺伝情報は塩基配列としてDNAに収められることを理解する。 ・細胞が分裂する際、DNAが合成・分配されることを理解する。 ・DNAの遺伝情報はmRNAに写し取られた後、アミノ酸配列に置き換えられてタンパク質と成ることを理解する。	
生物の体内環境の維持（2年次） ・体内環境 ・体内環境の調節 ・免疫		・心臓の働きにより体液は循環し、肝臓や腎臓は体液の成分を一定に保つはたらきをしていることを理解する。 ・体内環境は自律神経やホルモン系により保たれることを理解する。 ・体内には異物を認識し、排除するしくみがあることを理解する。	
生物の多様性と生態系（2年次） ・植生の多様性と分布 ・気候とバイオーム ・生態系とその保全		・地球上には森林や草原など、様々な植生が見られる。これらは長期的視点で見ると移り変わっていることを理解する。 ・気候・降水量の違いでさまざまなバイオームが存在することを理解する。 ・生態系では物質循環・エネルギーが移動していることを理解する。また生態系のバランスは一定の幅の中で変動することを理解する。	
第1章 生物の進化（2年次） 1.生命の起源と細胞の進化 2.遺伝子の変化と遺伝子の組合せの変化 3.進化のしくみ		・生命誕生の過程とその後の変化の概要を理解する。 ・突然変異と生物の形質の変化との関係を理解する。 ・有性生殖と遺伝子の組み合わせが変化との関係について理解する。 ・進化と遺伝子との関係や、進化の要因について理解する。 ・新たな種類の生物が生じる過程について理解する。	
第2章 生物の系統と進化（2年次） 1. 生物の系統 2. 人類の系統と進化		・生物種間の系統関係と、生物がもつ遺伝情報との関係について理解する。 ・生物の系統について理解する。 ・類人猿と人類の特徴を比較し、人類の進化の過程について理解する。	
第3章 細胞と分子(2年次) 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 生命現象とタンパク質		・細胞の構造とはたらきを理解する。また細胞活動はタンパク質等の分子の働きと密接に関係することを理解するとともにタンパク質の構造と機能を理解する	

第4章 代謝(3年次) 1. 代謝とエネルギー 2. 炭酸同化 3. 異化	・生命活動の本質は化学反応でありエネルギーが入り出る事を理解する。この際代表的な化学反応である呼吸・発酵・光合成の概要と窒素同化について理解する。
第5章 遺伝情報とその発現(3年次) 1. DNAの複製 2. 遺伝子の発現	・DNAの構造を理解し、そのことと関連付けて複製方法を理解し正確な複製が可能であることを理解する。 ・転写と翻訳のしくみを理解する。
第6章 遺伝子の発現調節と発生(3年次) 1. 遺伝子の発現調節 2. 発生と遺伝子の発現	・特定の遺伝子のみが発現するしくみについて理解する。 ・原核生物と真核生物における、遺伝子が発現するしくみの共通点と相違点を理解する。 ・様々な遺伝子の発現が調節されることにより、細胞が分化し、発生が進行することを理解する。
第7章 遺伝子を扱う技術とその技術(3年次) 1. 遺伝子を扱う技術 2. 遺伝子を扱う技術の応用	・生命のしくみを利用した技術の概要を理解する。 ・遺伝子の構造、発現、機能を解析する方法を理解し、その応用例を知る。 ・遺伝子を扱う技術に関する課題について理解する。
第8章 動物の反応と行動(3年次) 1. 刺激の受容と反応 2. 動物の行動	・刺激を受容する代表的構造、神経系を構成する細胞であるニューロン、および効果を示す構造の働きを理解する。 ・生得的行動と習得的行動に関する神経回路のしくみを理解する。
第9章 植物の成長と環境応答(3年次) 1. 植物と環境 2. 植物の一生と植物ホルモン	・植物の反応(成長、発芽、成熟、休眠等)に対する調節の仕組みを植物ホルモン・感光性物質と関連付けて理解する。 ・被子植物の配偶子形成と受精、胚発生の過程について理解する。
第10章 生態系のしくみと人間の関わり(3年次) 1. 個体群と生物群集 2. 生態系の物質生産と消費 3. 生態系と人間生活	・生物個体は他個体からの影響を受けて変動することを理解する。個体群の変動の特徴を種内・種間の個体同士の影響のタイプから理解する。各種生物を物質・エネルギーとの関係から理解する。 ・生物多様性のとらえ方について理解する。 ・人間生活が生態系に及ぼす影響を理解し、生物多様性の保全について考える。

教科	科目	学科・学年	単位数
理数	理数生物	理数科学科(2年+)3年	(4+)4
教科書		使用教材	
改定 生物基礎(東京書籍) 改訂版 生物(数研出版)		『スクエア最新図説生物 neo 十訂版』(第一学習社) 『五訂版リードα生物基礎』(数研出版) 『四訂版リードα生物』(数研出版)	
科目の概要 と目標	生物や生命現象についての観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な自然観を養う。また他の自然科学分野の知識と融合した総合的な自然観を養う。		
評価方法	ペーパーテスト、授業中の様子、実験の取り組みやレポート、課題から総合的に評価する。		
単元・学習内容		指導事項・評価規準等	
遺伝情報の発現(3年次) ・DNAの構造と複製 ・遺伝情報の発現 ・バイオテクノロジー ・遺伝子の発現調節		・DNAの構造を理解し、そのことと関連付けて複製方法を理解し正確な複製が可能であることを理解する。DNAの情報からタンパク質が作られる過程を理解し、物質による制御のあることを理解する。さらに生命のしくみを利用した技術の概要を理解する。	
生殖と発生(3年次) ・減数分裂と染色体 ・有性生殖の過程 ・発生の過程としくみ		・遺伝のしくみを減数分裂における染色体の分離と細胞接合により説明できることを理解する。 ・動物・植物の配偶子形成の過程を理解する。 ・動物・植物の受精卵の変化の過程と仕組みを理解する。	
動物の反応と行動(3年次) ・刺激の受容 ・神経系 ・動物の反応		・刺激を受容する代表的構造、神経系を構成する細胞であるニューロン、および効果を示す構造の働きを理解する。神経系および神経系の働きの結果生じる動物の行動のタイプと特徴を理解する。	
植物の環境応答(3年次) ・植物の反応と環境 ・植物の反応と調節		・植物の反応(成長、発芽、成熟、休眠等)に対する調節の仕組みを植物ホルモン・感光性物質と関連付けて理解する。	
生物群集と生態系(3年次) ・個体群の構造と維持 ・生物群集とその変動・生態系		・生物個体は他個体からの影響を受けて変動することを理解する。個体群の変動の特徴を種内・種間の個体同士の影響のタイプから理解する。各種生物を物質・エネルギーとの関係から理解する。	
生命の起源と進化(3年次) ・生命の誕生と変遷 ・進化の仕組み		・生命誕生の過程とその後の変化の概要を理解する。 ・進化の証拠と仕組みに関する説を理解する。	
生物の系統(3年次) ・生物の系統 ・生物の分類		・生物の系統を考える各種根拠を知る。 ・現在の代表的生物分類とその長所短所を知る。	

教科		科目	学科・学年	単位数
英語		総合英語 I	人文社会学科・1年、理数科学科・1年	4
教科書		使用教材		
ELEMENT English Communication I (啓林館)		ELEMENT English Communication I サブノート " WORKBOOK ADVANCED (啓林館) 英語の発音ノート (数研出版)		
科目の概要と目標	・英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 ・英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
学習状況の観点		評価方法		
知識・技能		ペーパーテスト、パフォーマンステスト		
思考・判断・表現				
主体的に学習に取り組む態度				
単元名・学習内容		指導事項・評価規準等		
LESSON 1 Intercultural Relationships	・強弱のリズム・イントネーションを聞き取る。 ・海外の高校生に日本の文化を紹介する計画についての会話を聞き取る。 ・Scidmore's Cherry Treesを読み、概要を理解する。 ・英語の5文型、受動態、to不定詞を用いた文の構造を理解する。 ・ワシントンの桜についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・自分のことについてクラスメートと情報を伝え合う。 ・アメリカからの交換留学生に、自己紹介のメールを書く。			
LESSON 2 Love beyond Species	・つながりやすい音・変化しやすい音を聞き取る。 ・ペットを友人に預ける際の注意点を聞き取る。 ・Christian the Lionを読み、概要を理解する。 ・現在完了形／現在完了進行形、分詞の限定用法を用いた文の構造を理解する。 ・ペットとして飼われたライオンの物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・ペットを飼いたい子どもと反対する親という設定でロールプレイを行う。 ・Christian the Lionのストーリー・レポートを書く。			
LESSON 3 Contributing to Our Planet	・消える音・弱くなる音、短縮形を聞き取る。 ・使い捨てのビニール袋とエコバッグのメリット・デメリットを聞き取る。 ・Bye Bye Plasticsを読み、概要を理解する。 ・関係代名詞、使役動詞を用いた文の構造を理解する。 ・バリ島のプラスチック問題についての英文を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・身近な環境問題とその解決策について話し合う。 ・アメリカからの交換留学生に、ボランティアに参加するように誘うメールを書く。			
Lesson 4 Messages for World Peace	・博物館を訪れた生徒に先生がしている諸注意を聞き取る。 ・Twice Bombed, Twice Survivedを読み、登場人物の心情を理解する。 ・過去完了形、知覚動詞を用いた文の構造を理解する。 ・二重被爆についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・山口さんの願いを継ぐために自分たちがすべきことについてディスカッションをする。 ・平和について自分の意見を書く。			
Lesson 5 Respecting Each Other	・身近な人や物について話している会話を聞き取る。 ・Nobody's Perfectを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・関係代名詞のwhat、関係副詞を用いた文の構造を理解する。 ・野球の投手と誤審を行った審判についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・イラストを見て、状況を説明する。 ・示された状況に沿って感謝の気持ちを伝えるとともに行事に招待する。 ・困難な状況にある友人を元気づける電子メールを書く。			
Lesson 6 Language and Culture	・ラジオニュースを聞き取る。 ・The Power of Wordsを読み、概要を理解する。 ・関係代名詞の非限定用法、分詞構文を用いた文の構造を理解する。 ・作家のスピーチを読み、その内容についてリテリングを行う。 ・好きなアニメや漫画、映画について発表する。 ・相手の話に対して興味があることを示す。 ・日本文化が楽しめる場所を例示しながら説明する文章を書く。			
Lesson 7 Technology and Discoveries	・科学イベントのスケジュールと講演の内容を聞き取る。 ・Serendipityを読み、概要を理解する。 ・形式主語のit、be動詞の補語になるthat節を用いた文の構造を理解する。 ・偶発的な発見による発明についての英文を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・歴史上最も偉大な発明は何かについて話し合う。 ・電子書籍より紙の書籍を好む理由を対比しながら書く。			
Lesson 8 Standing Up for Human Rights	・人権を守る試みについての会話を聞き取る。 ・Playing the Enemyを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・仮定法過去／仮定法過去完了、過去完了進行形を用いた文の構造を理解する。 ・ネルソン・マンデラとラグビーについての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・ある人物の経歴についてまとめ、発表する。 ・Playing the Enemy で人権に関する状況がどのように変わったかを時系列に沿って書く。			

教科		科目	学科・学年	単位数
英語		ディベートディスカッションⅠ	人文社会学科・2年	2
教科書			使用教材	
Genius English Logic and Expression Ⅱ (大修館)			Genius English Logic and Expression Ⅱ ライティングノート (大修館)	
科目の概要と目標	1 日常的な話題や社会的な話題に関する論題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、論理的に一貫性のある議論を展開することができるようにする。			
	2 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。			
学習状況の観点		評価方法		
知識・技能		ペーパーテスト、パフォーマンステスト		
思考・判断・表現				
主体的に学習に取り組む態度				
単元名・学習内容		指導事項・評価規準等		
Part 1 Unit 1 Unit 2		・英語の語順及び主語の選択について理解している。 ・行きたい国について、その国の説明や行きたい理由を交えて、情報を整理して英文を書く。 ・おすすめの本について、本の内容やすすめる理由、その本から学べることを交えて、情報を整理して英文を書く。		
Part 2 Unit 1		・列挙する表現や比較を表す構文を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。 ・自分を幸せにするものについて、ディベートを行う。 ・他者の意見に理解を示しつつ自分の意見を主張する表現や他の主張を引用する表現、論理の展開や構成を工夫して話し合っている。		
Part 1 Unit 3 Unit 4		・現在時制・過去時制、未来を表す表現、進行形、完了形の特徴やきまりについて理解している。 ・不定詞（名詞的用法）、動名詞、名詞節を導く接続詞、名詞節を導く疑問詞の特徴やきまりについて理解している。 ・気になるニュースについて、そのニュースの主旨やニュースから学べることを交えて、情報を整理して英文を書く。 ・スポーツに対する意見を、理由や具体例を交えて英文を書く。		
Part 2 Unit 2		・例をあげる表現や程度の差や変化を表す構文を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。 ・科学技術と生活について、ディベートを行う。 ・他者の意見に理解を示しつつ自分の意見を主張する表現や他の主張を引用する表現、論理の展開や構成を工夫して話し合っている。		
Part 1 Unit 5 Unit 6		・分詞、関係詞、不定詞（形容詞的用法）の特徴やきまりについて理解している。 ・意志・推量・義務・必要性を表す助動詞の特徴やきまりについて理解している。 ・おすすめの地元の料理について、その料理の説明を交えて、情報を整理して英文を書く。 ・励ましの手紙を、相手の悩みやそれに対するメッセージを交えて英文を書く。		
Part 2 Unit 3		・順序立てて述べる表現や時を表す構文を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。 ・自分自身のこれまでに、ディベートを行う。 ・他者の意見に理解を示しつつ自分の意見を主張する表現や他の主張を引用する表現、論理の展開や構成を工夫して話し合っている。		
Part 2 Unit 4		・対比・対照する表現や類似を示す表現、譲歩を表す構文を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。 ・都会と田舎のどちらに住むべきかについて、その国の説明や行きたい理由を交えて、情報を整理して英文を書く。 ・他者の意見に理解を示しつつ自分の意見を主張する表現や他の主張を引用する表現、論理の展開や構成を工夫して話し合っている。		
Part 2 Unit 5		・結果を導く表現や原因を述べる表現、目的を表す構文を用い、論理の展開や構成を工夫して書いて伝える技能を身につけている。 ・環境問題とその解決策について、ディベートを行う。 ・他者の意見に理解を示しつつ自分の意見を主張する表現や他の主張を引用する表現、論理の展開や構成を工夫して話し合っている。		